

# どうする!?

# プラスチック!!

ごみ焼却から  
資源循環へ!

生活者  
せたがや

No. 190

【編集・発行】2022年7月20日号  
世田谷・生活者ネットワーク  
代表/山木きょう子  
〒154-0017 東京都世田谷区世田谷  
1-16-16安藤ビル301  
TEL: 03-3420-0737  
FAX: 03-3706-1744  
email: setagaya@seikatsusha.net  
http://setagaya.seikatsusha.me



世田谷清掃工場の「ガス化溶融炉」は、何でも燃やせる夢の焼却炉という看板を掲げ平成20年に稼働。これを機にプラスチックが「可燃ごみ」と分別変更されました。稼働直後から異物混入や作業室内へのダイオキシン漏れなど様々なトラブルが続発。平成27年度には停止にもなうごみ運搬費だけで2億円以上の想定外の補正予算が必要になり問題とされました。

生活者ネットワークは、この間世田谷清掃工場問題について、議場で30回以上取り上げ、安全と税金の無駄使いの両面から「ガス化溶融炉」廃止を求めてきました。令和3年2月、東京二十三区清掃一部事務組合長期計画に、世田谷清掃工場の建て替え予定が盛り込まれ、竣工後たった18年という異例の短かさで、この工場は倍の規模の「ストーカー炉」に建て替えになります。しかし、生活者ネットワークは、処理能力を2倍にすることは、反対です。なぜなら、世界は循環型経済に動いており、日本でもやっと今年の4月に「プラスチック資源循環法」が施行されました。CO<sub>2</sub>削減のためにもプラスチックの資源化が必要で、ペットボトルに代表されるようなプラスチック利用を前提とした包装や販売の形態も変え、ごみを減らしていかなくてはなりません。生活者ネットワークは、市民が「ごみを出さない生活」にシフトしていけるよう、世田谷区の分別方法の見直し、行政に責任を持った「ごみ政策」を求めていきます。

世田谷・生活者  
ネットワーク

生活者ネットワークは市民と議会・行政をつなぐパイプ役として、地方議会に議員を送りだしています。

【表紙写真】ペットボトル中間処理工場にて

## ～2023年統一地方選挙に向けて～

### 区議会議員選挙第1次予定候補者決定!!



関口江利子

持続可能な生活都市・世田谷を!  
必要なのは住まいと職、医療・介護・教育の充実です。

持続可能な生活都市・世田谷を!  
必要なのは住まいと職、医療・介護・教育の充実です。



金井えり子

持続可能な生活都市・世田谷を!  
必要なのは住まいと職、医療・介護・教育の充実です。

世田谷・生活者ネットワークでは、毎月、地域で『おしゃべりサロン』を開催しています。どうぞ、お気軽にお越しください。イベント情報はコチラから→

世田谷・生活者ネットワーク公式Line



### 世田谷・生活者ネットワーク 中・長期計画発表集会

2022年9月10日(土)14:00～@スリーアップワンビルF5会議室

【講演】池田君江さん(認定NPO法人ココロのバリアフリー計画理事長)

【参加費】無料

ココロがあれば、バリアもフリーになる! 車いす・ベビーカー・お年寄りが、安心して出かけられる社会の実現を目指して活動する池田君江さんのお話を伺います。



認定NPO法人ココロのバリアフリー計画  
<https://www.heartbarrierfree.org/>

### カンパをお願いします

生活者ネットワークの活動は、カンパとボランティアで支えられています。カンパは1口1,000円から、いくらでも、いつでもOKです。どうぞよろしくお願い致します。

【ゆうちょ銀行】

世田谷・生活者ネットワーク  
記号)00110-1-765709  
店名)019  
普)0765709



暮らしの中での困りごとなど、  
お気軽にご相談ください。



世田谷区議会議員  
金井えり子

世田谷区議会議員  
田中みち子

世田谷区議会議員  
高岡じゅん子

政策委員  
関口江利子

元都議会議員  
西崎光子

3 せたがや生活者ネットワークのルール

1 議員は交代制(ローテーション)

2 議員報酬は市民の政治活動資金に

3 選挙はカンパとボランティアで

☎03-3420-0737  
世田谷・生活者ネットワークHPからもお問い合わせいただけます。

# 令和4年第2回定例区議会報告

6月13日から22日まで開催。新型コロナウイルス対策や給食費を値上げせず食材費の高騰による保護者の負担増を防ぐための補正予算など、議案12件が可決。中川李枝子さん他3名の新たな名誉区民も承認されました。



区民生活常任委員会  
DX推進・公共施設整備等  
特別委員会

## 「ゲノム編集トマト」 知らずに育てない

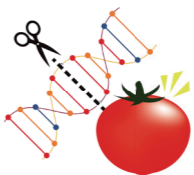
今、ゲノム編集トマトなど、今までにない人工的に作られた植物の苗や種が市販、実験的に配布され始めようとしています。世田谷区は生物多様性地域戦略を作り、外来種の駆除などを積極的にを行っています。カメなどの動物を自然に放すことが生態系を壊すことは、区民にも知られてきました。しかし、植物にも注意が必要です。

## 子どもの声を生かしたしくみづくり

世田谷区では、国や東京都、他自治体に先行し、子どもの人権擁護機関「せたがやホッと子どもサポート」略称「せたホッと」を平成25年に開設し、来年度開設10年の節目を迎えます。「世田谷区子ども条例」に基づき設置された「せたホッと」が子どもの声を代弁して子どもの最善の利益が守られる制度であるためには、当事者である子どもの意見が反映されることが重要です。「子ども・子育て会議」で検証・点検評価するしくみはあっても、子どもの参加や意見聴取のしくみはありません。そこで、これまで相談に来てくれた子どもたちへ『実感調査』を実施することを提案しました。子どもの声を検証に生かし、子どもの権利擁護がきちんと機能してきたのか総括し、今後を生かしていくことが必要です。



校で育てることは、意図せぬ交雑の可能性があり避けるべきではと質問しました。みどり33推進担当部から、区民や庁内での理解促進を図るとの答弁を得ました。



## 自殺の少ない町の研究から 「生き心地のよいまちづくり」

国勢調査によれば世田谷区は51%が1人暮らし世帯で、孤独・孤立対策は深刻化していく大きな課題です。

世田谷区は今まで「生きづらさ」に着目した政策を展開してきました。自殺予防因子の研究をしている岡檀さんの著書『生き心地の良い町』からヒントを得て、発想の転換のもと「生きやすいまち」を求め質問しました。

今後とも困難な立場に立たされている子どもたちの声を受け止め、子どもの立場から最善の利益が保障されるよう子どもたちに寄り添い課題解決にむけ取り組んでいきます。



▲配布用の「せたがやホッと子どもサポート」パンフレット

## 金井えり子



福祉保健常任委員会  
地域行政・災害・防犯・  
オウム問題対策等特別委員会

## 地域共生社会の実現を

今、「世田谷区障害者理解の促進と地域共生社会の実現をめざす条例(素案)」づくりが進められています。ある聞き取り調査で

「病は市に出せ」(自分や家族の弱みができるだけ早く周囲に伝える事)がしやすいまちは自殺が少ない。深刻な事態に至る前に気軽に相談ができるサロンのな場として、世田谷区内28か所の「まちづくりセンター」を活用し、孤立・孤独防止に役立てるよう提案しました。



▲松原まちづくりセンター  
▲生き心地の良い町(岡檀著)

## DXを活用した 孤独・孤立対策

昨年度、国による初めての「全国孤独・孤立実態調査」が行われ、20代30代で孤独や孤立を常



▲公園のユニバーサル遊具を視察する  
関口えり子と田中みち子

「障がいな理解がない。公園に行くこと自体がハードル」という声がありました。身近な公園に車いすでも楽しめる砂場をプラスするとか、ぶらんこをひとつユニバーサルデザインのものに変えるなど、ユニバーサル遊具の設置をすすめるよう要望しました。

もちろんユニバーサルデザインの遊具があるだけでは、心のバリアを取り去ることはできません。しかし遊具をきっかけに地域に理解がひろがれば、「公園に行くこと自体がハードル」と思う方の心のバリアフリーにつながります。

世田谷の環境の中で緑を感じたり、体をのびのびと動かしたり出会いや体験を重ねられる公園の存在は貴重です。障がい当事者の方々の対話をもとに誰もが楽しめる公園を目指すこと答弁を得ました。

に感じる割合が他の年齢層よりも高かったことが報じられています。デジタルネイティブ世代は、SNSなどオンラインでの対話のほうに相談しやすいかもしれません。

今まで区に届きにくかった障がいや引きこもり当事者など声を新たな手法で聞き取っていただくことも重要です。DX担当として3人目の副区長に就任した松村氏から、デジタル技術を活かし、声をあげにくい人々の思いをキャッチし支援につなげていきたいとの抱負を伺いました。



文教常任委員会  
スポーツ・交流推進等  
特別委員会

## 洪水・内水氾濫の 防止に向けて

梅雨入りが発表され、同じ場所に大雨が続く線状降水帯や豪雨が集中する7月上旬の警戒が必要で、過去5年連続で、水害や土砂崩れに巻き込まれ全国で四百人以上の死者や行方不明者

が出ています。特にこの時期には気象情報をこまめに確認するなど一人ひとりの危機意識が重要です。

世田谷区には昔から氾濫を繰り返してきた川がいくつもあります。側溝や暗渠地下に埋められたり蓋をされたりしている川となり、川自体は目に見えない場所であっても内水氾濫を起こしやすい地形特性があります。暗渠化された河川は古地図などを活用したマップや動画配信などさらなる工夫と注意喚起が必要です。

大雨洪水注意報がだされた6月3日は短期的・局地的に大雨が降り、仙川では自転車が流されるほど一気に増水しました。洪水・内水氾濫を防ぐためには、このような川の流れを注視する必要があります。現存の河道掘削計画を見直すことも視野に、河川の中洲や蛇行部分の状況把握と堆積物や障害物の撤去は最優先に進めることを求めました。



▲仙川の中洲に放置された  
自転車

## せたがや食品 衛生講座

令和3年度せたがや食品衛生講座「知りたい!聞きたい!食品添加物」もっと知りたい!聞きたい!食品添加物の2本の動画が6月30日まで配信されています。残念なことに「食品添加物は安全」というアピールばかり、しかも動画配信のみの形で、区民の意見も聞かれない一方通行の講座でした。

食料自給率38%の日本、海外の動きに大きな影響を受けます。食へることは生きる事!食は体をつくるだけでなく、心も支える命の源、重要課題です。食品添加物の表示は、「無添加表示」もあやふやにされるような現状で、国の基準だけではとても不安です。

東京都のガイドラインにも照らし、不安解消につとめてほしい、今後の食品衛生講座は、区民の思いに答え、本当に知りたい聞きたいものとなるよう求めました。

